

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

医学部医学科

部局長名:

大塚 愛二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 ・医学系教員を対象とした新任教員FDを実施し、医学教育に固有の教育課題の共有と教育水準の向上を図る。 ・各授業科目の成績評価について、学生と教員が同じ認識に立てるよう成績周知方法の改善を図る。 ・国際協働教育プログラムについて、拡充を図る。	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 4月20日に医学系・医学科の新任教員を対象にFDを実施し、医学科の教育理念・使命、3ポリシーについて周知し、医学教育固有の教育課題の共有と教育水準の向上に努めた。 各授業科目の成績評価について、ヒストグラムや統計指標を開示し、学生と教員が同じ認識で成績評価点を解釈できるように改善した。 ミャンマーとの国際協働教育プログラムについて、屋根瓦方式による研究科・学部連携教育プログラムを拡充した。
①-2 全学の組織目標との関連 1-② 学びの強化のための諸施策の実施 1-⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成	①-2 大学全体への貢献 留学生受入れプログラムをさらに拡充するとともに、屋根瓦方式により受入れ体制の強化を図った。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標 医師国家試験合格率について、全国平均を上回ること。	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 医師国家試験合格率は、全体で 93.5%と全国平均と比べて 3.4ポイント高かった。新卒のみの場合も 98.2%で、全国平均と比べて 4.9ポイント高かった。新卒の合格率は、国立大学中トップであった。
②研究領域	
②-1 目標 医歯薬学総合研究科の目標に含まれる。	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
②-2 全学の組織目標との関連 同上	②-2 大学全体への貢献
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標 同上	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 ・地域医療体験実習を通じて、地域医療機関との医学教育協働を推進することにより、将来の地域医療に貢献する人材育成を図る。 ・高校の要請に応じ高大連携プログラムを実施し、高校のキャリア教育に貢献する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 地域医療実習において、県内外で52施設と連携し、のべ179人の学生が実際の地域で実習し、地域医療機関での指導医からの評価も高かった。 高大連携プログラムとして、各高校からの要請に応じて実施した。多数の高校生に医学と医療の魅力を伝えた。
③-2 全学の組織目標との関連	③-2 大学全体への貢献
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
④管理運営領域	
④-1 目標 ・コンプライアンス研修等の出席率を向上させ、コンプライアンス意識の向上を図る。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 法令遵守に関する各種通知等の周知に努めた。 不正防止計画推進室によるモニタリングの結果を受けて、メール通知により部局内の全教職員に対して注意事項の周知徹底を図った。また、メール、会議等を通じて公的研究費等の使用に関する課題点を共有し、適正な執行について意識向上を図るとともに、公的研究費等の不正使用防止に係るコンプライアンス教育(e-learning研修)の受講を指示した。 全学で実施する個人情報保護教育研修及び情報セキュリティセミナーの受講を促し、未受講者については、配信動画にて受講するよう指示した。 研究倫理教育に関しては、未受講者に対し日本学術振興会のe-learningコンテンツによる個別学習の受講を促した。
④-2 全学の組織目標との関連 1-①① 法令順守の徹底	④-2 大学全体への貢献 コンプライアンス研修、倫理研修を実施し、法令順守に努めた。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 研修会出席率	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 研修会への出席を促すリマインドメールを事務組織から送信し、出席率向上に努めた。
【総括記述欄】	
各領域ともに、概ね、良好であった。事務組織と教員組織の連携が良くなってきている。	